

日本の将来を支える ユビキタス官庁をめざして

総務省大臣官房企画課
課長補佐 兼 政策室員 岡村 信悟

経 歴

- 平成 7年 4月 郵政省採用
- 平成 7年 7月 同 大臣官房国際部国際協力課
- 平成 8年 7月 同 人事部人事課
- 平成 9年 7月 英国留学(エセックス大学大学院)
- 平成10年 6月 郵政省通信政策局政策課情報通信利用振興室企画係長
- 平成11年 7月 同 通信政策局地域通信振興課
- 平成12年 7月 同 通信政策局政策課制度係長
- 平成13年 1月 総務省情報通信政策局情報利用促進課政策係長
併任 情報通信政策局情報通信政策課
コンテンツ流通促進室室長
- 平成13年 4月 箕面市市長公室専任理事
- 平成14年 4月 同 政策統括監 併任 市長公室専任理事
- 平成15年 8月 総務省情報通信政策局地域通信振興課地方情報化
推進室課長補佐
- 平成17年 5月 同 情報通信政策局地域通信振興課課長補佐
- 平成18年 8月 同 郵政行政局総務課課長補佐
併任 郵政行政局総務課郵政事業連絡調整室室長補佐
- 平成18年10月 内閣総理大臣官邸世耕内閣総理大臣補佐官室参事官補佐
- 平成20年 1月 総務省総合通信基盤局電気通信事業部消費者行政課課長補佐
- 平成21年 7月 同 情報流通行政局郵政行政部企画課課長補佐(統括補佐)
- 平成22年 7月 現職

プロジェクト紹介 総務省の政策推進をリードする

幅広い業務全体を見渡しなが、政策の企画・立案過程において総務省の進む方向性を明らかにするとともに、他府省庁に対する窓口として、関連する省内各部署の事務が円滑に推進されるよう、協議・調整を行うのが大臣官房企画課の役割です。いわば政策推進の「舵取り役」。

毎年度の重点施策を総務省アクションプランとしてとりまとめ、総務省の政策をわかりやすく発信するとともに、国家戦略会議や行政刷新会議などの政府横断的な会議で総務省が担当する政策事項につき、担当課室と協力して対処方針を調整し会議の取組に積極的に貢献します。

また、これらの政策推進については政務三役による意思決定が不可欠であり、上述の会議への対処方針を決定するプロセスなどにおいて、適宜政務三役の指示を受け、それを反映させることも官房企画課の大きな役割です。また、定期的に政務三役会議を開催し、その結果を報道機関などに明らかにすることや、省内の複数部署が関わる横断的政策課題について政務三役による企画・立案を行う際にも部局間の調整を行っています。



総務省はユビキタス！ ～総務省と大臣官房の業務～

21世紀の幕開けと同時に総務省が誕生し10年以上が経ちました。名前からは何をやっているのかイメージしにくいと思いますが、総務省は、政府全体の組織管理、地方自治、通信・放送など幅広い分野を取り扱っています。

ICT社会の今後の有り様を示すユビキタスという言葉がありますが、皆さんがあまり意識しない様々な場面で国民生活を支える仕事を行っている総務省を表す言葉としてぴったりだと思います。

私は、この総務省の大臣官房企画課に所属し、政策推進の調整役として働いています。政権交代でより明確になりましたが、重要政策を推進するに当たっては政務三役による意思決定を経て国民本位の行政を実現することが重要です。

例えば、毎年度の税制要望では、要望の担当課室と、副大臣・政務官との間では何度も議論が行われ、対応を協議しています。政務三役とのつなぎ役として要望内容を把握し財務省等との折衝状況を踏まえて調整するのは私たち官房企画課の仕事です。税制要望の他にも、TPPなど重要課題がめじろ押しなので、政務三役の執務室を訪れ、案件の説明や協議を行うことが頻繁になります。

また、政務三役会議や顧問との懇談など、大臣や副大臣がじっくりと議論を行う場に陪席する機会も多く、政治家の方々の生の声を聞くことができます。省の意思決定に常に立ち会っているという実感は、毎日をスリリングなものにするのです。

「おたすけマン？」は今日もゆく ～これまでの経験～

ところで、私は、まだ三十代に入ったばかりの頃、大阪府箕面市に出向し、地方自治の最前線に投げ込まれました。住民に最も近い行政の場で、幅広い課題に真正面から取り組んだことにより、これからの公共を支える行政の役割について真剣に考えるきっかけとなりました。

また、安倍内閣時代には、世耕総理大臣補佐官のスタッフの一員として、首相官邸に席を与えられ、「美しい国づくり」プロジェクトから年金記録問題まで政権のあらゆる重要課題に取り組み、政と官が渾然一体となった日本の中核に身を置いて悪戦苦闘の日々を送るといった貴重な体験を持つことができました。

さらに、安倍内閣退任後、新しい政策形成に

携わる場として、インターネット上の違法・有害情報対策に取り組みました。100を超える民間企業や教育関係者等のもとに足を運び、いわゆる業界団体ではなく、利用者・産業界・教育関係者が相互に連携してインターネットについて考え、行動するための新たなプラットフォームとして、安心ネットづくり促進協議会を設立するなど、密度の濃い2年間を送ることができました。

このように次々と異なる場に飛び込んで、あたかも「おたすけマン」のように直面する困難な課題を解決しながら、無我夢中で過ごしているうちに、私もいつの間にか不惑を越え、中堅と言ってもいい年齢となりました。いわば公務員人生の折り返し地点に立って、今後、如何に生きていこうか、思いを新たにしている昨今です。

Only connect ～これからの公務員の役割～

E.M.フォースターの小説、ハワーズ・エンドの冒頭に「ただ結びつけることさえすれば」とあります。小説の内容とは関係ありませんが、これからの公務員の役割を考える言葉としても、なかなか味わい深いと感じます。

かつて、公務員の仕事は、イコール、法律、予算というイメージでした。私も駆け出しの頃は、一刻も早く法律や予算作成に携わりたいという思いが強かったものです。もちろん、これらは重要ですが、あくまで手段に過ぎません。

右肩上がりの時代は終わり、パイをいかに分けるかという発想は有効とは言えなくなりました。将来の日本で、誰もが誇りを持って生き、次世代にきちんとバトンを渡すためには、他人任せにするのではなく、様々な立場から多くの人々が知恵と力を結集し、支え合う社会の実現に参画することが求められています。

人と人とを結びつけ、各人が「公共」という場において積極的に活動し貢献できる、そのコーディネーターになることこそ、私たち公務員の役割であり、単に、知識や頭の良さではなく、共感し共鳴させる力など、総合的な「人間力」が試されることとなります。難しいことですが、それだけに、自分の取組がきっかけとなって、公共の分野に新たな磁場がはたらき始めるとやりがいもひとしおです。

新しい日本をユビキタスに支える総務省のメンバーとして、志のある若い皆さんと出会い、切磋琢磨し、互いの人間力を向上させていくことを楽しみにしています。

Schedule ある1日のスケジュール



9:10

出勤

読書に励むつもりですが、雪化粧をした富士山や美しい女性に目を奪われて集中できないこともしばしばです。

10:00

情報通信政策課と意見交換

次回の国家戦略会議に総務省から提案するテーマがあるので、担当課の情報通信政策課と会議への提出資料を調整。大臣説明をいつ頃までに行うかも決めました。

12:00

昼食

最近、少々体重が気になるので、妻の春奈に頼んでお弁当を作ってもらっています。春奈に感謝を込め(?)、今日も弁当箱は自分で洗いました(当たり前か...)。

13:00

政務三役会議の準備

会議直前は、議事次第や進行要領の確認、資料準備などに忙殺されました。こういう時は日頃培ってきたみんなのチームワークがものを言います。

15:00

政務三役会議

大臣、副大臣、政務官の6名が大臣室に集まり、懸案の事項について真摯に議論を行いました。副大臣による会議結果の記者ブリーフィングが終了するまで私たちは気が抜けません。

18:30

退庁

普段は、できるだけ定時退庁を心がけ、子供達(麟太郎と玲)とお風呂に入ることにはしていますが、今日は、政務三役会議も終わったことだし、同僚のみんなと飲みに行くと有頂天になろうと思います(春奈、許して!)。

若手職員の声



大臣官房企画課
企画調査第五係長

栗原 渉
(平成19年入省)

大臣官房企画課は課員の仲が良く、上下・ライン問わず楽しく協力して業務に臨んでおります。岡村補佐はその象徴のような方で、上下・ライン関係なく誰にでもフランクに話しかけ、課内を明るく働きやすい環境にしてください。ムードメーカーです。

官房企画課は他省庁等外部からの政策協議や作業依頼を省内の担当部署に割り振り、省としての意見を調整することを業務としております。係長の私がいま調整を行うこととなりますが、簡単に意見はまとまりません。私が悩んでいるとき、岡村補佐はこんな言葉をかけてくださいます。「君を信頼しているから全力でやってくれれば良い。それでもどうしようもなくなったら俺に言ってくれ。責任は俺がとる。」。業務の裁量+安心感を与えてくれる上司のもとで働くことが、いかに成長できる環境であるか日々実感しております。私も将来は部下にそんな言葉をかけられる上司になりたいと思います。